

国語(現代文)

名古屋大学 農学部、医学部（保健学科）（前期） 1 / 2

＜総括＞	出題数 現代文 1 題	試験時間 45 分
人間の感じる2種類の「むなしさ」を述べたうえで、SNS時代の現代における「むなしさ」について論じた文章からの出題。内容に関わる絵画が図1・2として掲載された。昨年と比べ文章量は大きく減少し、内容も比較的読みやすいものだった。設問は、昨年同様、漢字の読み書き、記述問題4問、内容合致問題が出題された。漢字は例年より2つ減って計8つであった。また、接続語の空欄補充問題が出題された。記述問題は昨年より記述量がやや増加した。全体としての難易度は昨年と同様である。		

＜本文分析＞

大問番号	□
出典 (作者)	『「むなしさ」の味わい方』（きたやまおさむ）
頻出度合 ・的中等	普通
分量 前年比較	分量 減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 昨年は5303字、今年は4128字で1175字減少
難易 前年比較	難易（易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
□	評論	問一	漢字の読み書き	標準	特に難しいものはない。
		問二	客観	やや易	空欄の前後の文脈を踏まえればよい。
		問三	記述	標準	傍線部の1つ後の段落と、傍線部の2つ後の段落をそれぞれまとめればよい。
		問四	記述	標準	傍線部の3つ後の段落と、傍線部の4つ後の段落をまとめればよい。
		問五	記述	標準	設問の意図がややつかみづらい。
		問六	記述	やや難	設問の要求に合うように解答をまとめるのがやや難しい。
		問七	客観	標準	「エ」の選択肢がやや紛らわしい。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

国語^(現代文)

名古屋大学 農学部、医学部（保健学科）（前期） 2 / 2

<学習対策>

問題集や過去問を利用して、評論に触れて読解力を養うとともに、記述問題の練習を十分に積んでおくこと。
漢字の読み書きについても対策を怠らないようにしておくこと。